

Analog Wireless Intercom System

YFF-4530

特定小電力(親機)

取扱説明書

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

TAMURA

安全上のご注意：

ここでは弊社製品を安全にご使用いただく上で大切な[禁止事項]・[注意事項]について記載します。操作に入る前に必ずお読みいただき、大切に保管し、正しくご使用いただくようお願いいたします。また廃棄の際は〔廃棄上の留意点〕を必ずお読み下さい。



警告

この表示とともに記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

この表示とともに記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。



△記号は注意しなければならない内容（警告を含む）を示しています。具体的な注意内容は△の中や近くに絵や文章で示しています。左図の内容は[感電注意]を示しています。



⊘記号は、禁止内容（してはならないこと）を示しています。具体的な内容は⊘の中や近くに絵や文で示しています。左図の場合は[分解禁止]を示しています。



●記号は、強制内容（必ずやること）を示しています。具体的な注意内容は●の中や近くに絵文章で示しています。左図の場合は[電源プラグをコンセントから抜く]を示しています。

- ・ 製造責任法に規定する欠陥が存在することに起因する場合を除き、製品を使用し、お客様の生命、身体または財産に損害が生じることがあっても当社は何ら責任を負うものではありません。
- ・ 本製品の瑕疵によった場合でも、お客様が当社指示以外の作業などを行った場合、その費用や損害については、当社は何ら責任を負うものではありません。



警告



万一煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。



万一機器内に水や異物が入ったなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。



万一機器を落としたりカバーを破損したりした場合、そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



機器本体に直接水のかかる場所で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



本機の分解・修理・改造は絶対にしないで下さい。またカバーは絶対に外さないで下さい。火災・感電の原因となります。



人命に関わる用途には絶対に使用しないでください。



注意



本機をお手入れする場合は安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となる事があります。



長期間（1ヶ月以上）使用しない場合には安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。接続したままにしておくと、火災・感電の原因となることがあります。



本機を移動する場合には、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部機器の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となる事があります。



不安定な場所に置かないで下さい。落下し機器が破損し、火災・感電の原因となります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないで下さい。感電の原因となることがあります。



窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たるところなど、異常に温度の高いところには置かないで下さい。火災の原因となることがあります。



振動の多い場所では使用しないで下さい。機器が破損し、火災・感電の原因となります。



埃の多い場所には置かないで下さい。火災・感電の原因となることがあります。



精密機械のため、乱暴に扱わないで下さい。機器が破損し、火災・感電の原因となります。



電源を入れた状態で、ユニットの抜き差しをしないでください。機器が破損し、火災・感電の原因となります。



ヘッドセットをご使用になるときは、音を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



清掃上の留意点：

本機器の表面の清掃は、無通電で行って下さい。有機溶剤は、使用しないで下さい。清掃は、乾布で拭いて下さい。筐体が腐食したり変形する恐れがあります。

廃棄上の留意点：

・お客様へ

本器を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託して下さい。

・回収サービス

弊社製品による入れ替えにともなう回収をご希望される場合は、弊社営業部へお問い合わせください。この場合、産業廃棄物としての管理などに関わる費用を別途請求させていただく場合があります。

異常や不具合が起きたら：

すぐに電源を切り（電源コンセントのプラグを抜く）、販売店又は弊社カスタマーサポートにご連絡下さい。連絡先は本書末尾に記載してあります。お客様による修理は危険ですので、絶対にお止め下さい。

ご使用上の注意

- このシステムは、電波を利用している為サービスエリア内であっても電波の届かないところ、電波の弱いところでは使用できないことがあります。
- このシステムは、電波を利用している為、他の機器に近づけて使用すると影響を与えることがあります。あらかじめご確認の上ご使用ください。
- 携帯電話やデジタルコードレス電話（PHS、弊社デジタルワイヤレスインターカム）等を近くで使用すると、システムにノイズが混入する場合があります（ブーンという音等）。あらかじめご了承ください。
- このシステムは、電波を利用している為、同一規格の無線機や別規格の無線機を近づけて使用すると干渉する場合があります。あらかじめご確認の上ご使用ください。
- このシステムは、電波を利用している関係上、傍受される場合があります。十分ご配慮の上ご使用ください。

その他ご不明な点等がございましたら弊社営業部までご相談ください。
(連絡先は、本書末尾に記載してあります)

目次

1. 概要	6
2. システムの特徴.....	6
3. 構成	6
4. 各部の名称と機能説明	7
4.1. 画面表示	11
5. 設定画面	13
5.1. CHANNEL AUTO SELECT 画面	13
5.2. CHANNEL MANUAL SELECT 画面	14
5.3. TONE SQ FREQUENCY SELECT 画面	15
5.3.1. TX/RX SAME FREQUENCY SELECT 画面	16
5.3.2. TX/RX SEPARATE FREQUENCY サブメニュー画面.....	16
5.3.2.1. TX TONE 画面	16
5.3.2.2. RX TONE SELECT ALL CH 画面	17
5.3.2.3. RX TONE SELECT EACH CH 画面	17
6. 使用周波数一覧表	18
7. 定格性能	19
8. 外形寸法図.....	20
9. 系統図.....	21
10. 故障かなと思ったら.....	22

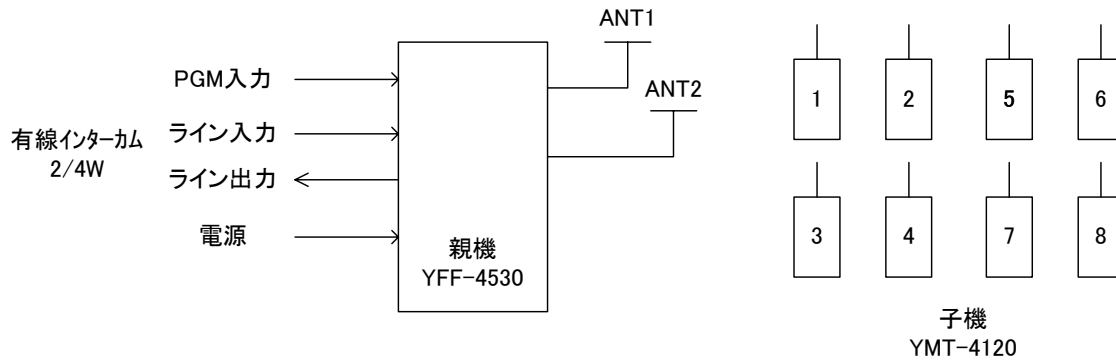
1. 概要

YFF-4530 は、放送局、劇場、ホール、産業用等の作業用連絡無線システムを構築する、アナログワイヤレスインターカムシステムの親機です。

2. システムの特徴

本システムの親機および子機は、「特定小電力無線局 無線電話用無線設備」(ARIB STD-20)として規定されています。

システム例



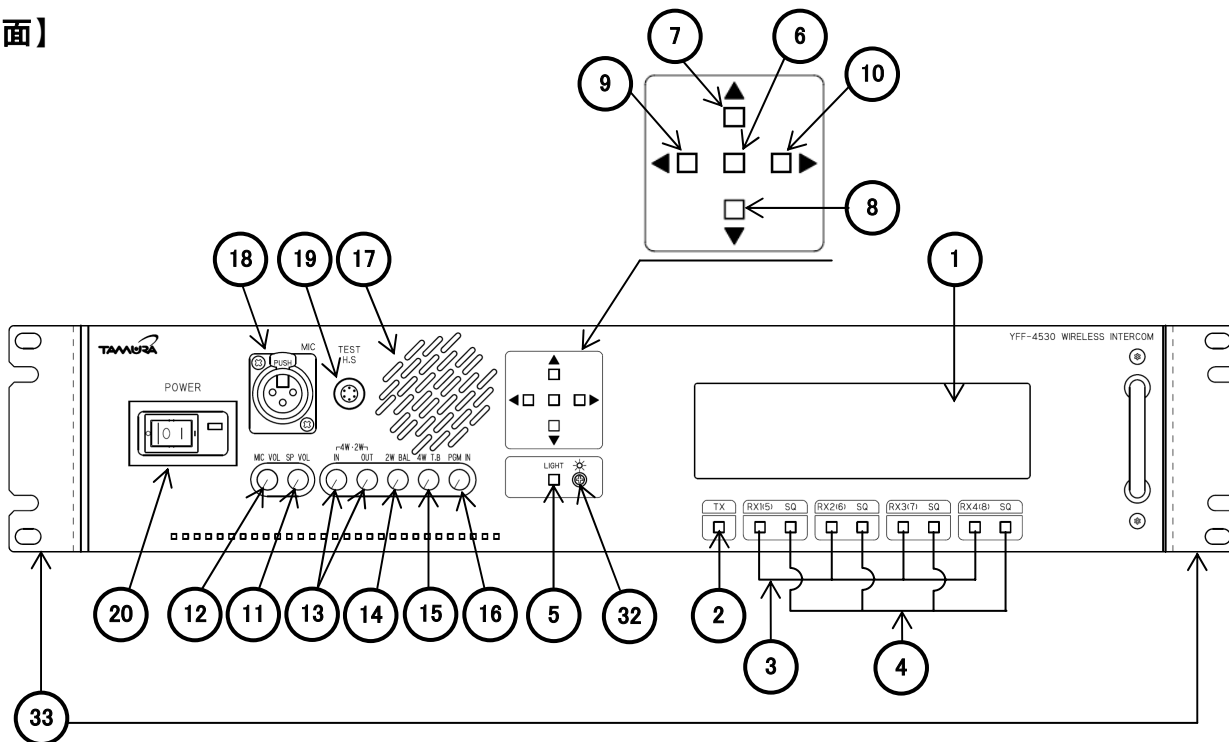
- 1) 親機1台に対して子機最大8台まで同時通話が可能です。
- 2) チャンネル選択はシンセサイザ方式の採用により、容易に行えます。
- 3) コンパンダ方式の採用により高品質の通信ができます。
- 4) ノイズスケルチ・トーンスケルチ併用方式の採用により、外来電波に強いシステムです。
- 5) 受信専用モードに設定した親機を増設することで、子機を9台以上増設することが可能です。

3. 構成

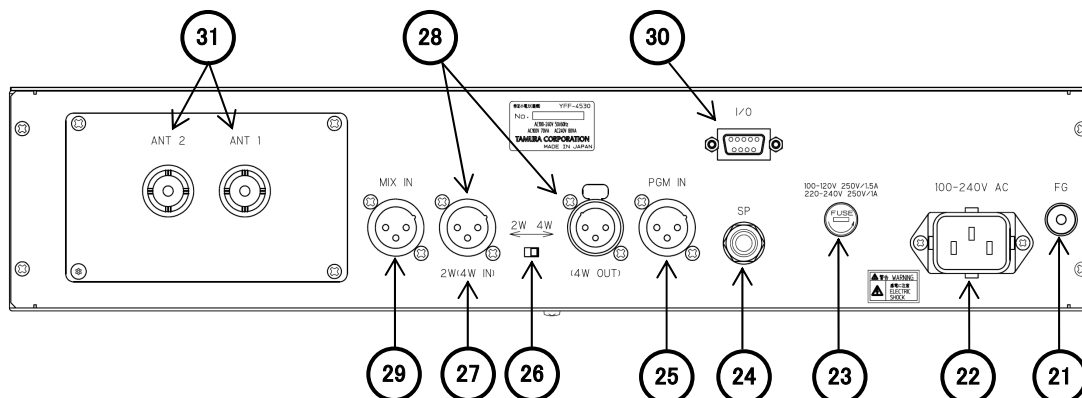
- 1) 本体
 - (a) YFF-4530 (親機) 1台
- 2) 付属品
 - (a) 電源ケーブル 1本
 - (b) 取扱説明書(本書) 1部
 - (c) XLR3 プラグ(メス) 2個
 - (d) XLR3 プラグ(オス) 1個

4. 各部の名称と機能説明

【前面】



【背面】



① 表示パネル

送信、受信ユニットの状態を表示します。
表示内容は、11 ページ「画面表示」を参照してください。

② 送信スイッチ (TX)

送信の ON/OFF を切り替えるスイッチです。
スイッチを押すことにより、ON・OFF 動作が交互に行われます。
受信専用モード設定時は、スイッチ操作は無効になります。

ON 送信中
OFF 送信停止中

③ 受信ユニットスイッチ (RX1～RX8)

受信の ON/OFF を切り替えるスイッチです。
スイッチを押すことにより、ON・OFF 動作が交互に行われます。

ON スケルチ状態表示
Sレベル表示
OFF 受信停止中

※画面表示をしている受信ユニット番号および、
矢印で示している受信ユニット番号のスイッチ
が有効です

※チャンネル表示が「—」の場合は、ユニットが
実装されていない状態です。

④ スケルチスイッチ (SQ)

各受信ユニットのスケルチスイッチです。
このスイッチを押している間は、スケルチがオープンとなります。

※画面表示をしている受信ユニット番号および、
矢印で示している受信ユニット番号のスイッ
チが有効です

※チャンネル表示が「—」の場合は、ユニットが
実装されていない状態です。

⑤ バックライトスイッチ (LIGHT)

バックライトの ON/OFF を切り替えるスイッチで
す。

※主電源 ON 時、バックライトスイッチが OFF
の状態でも、約 30 秒間は点灯します。

⑥ ■スイッチ

RX1～RX4と、RX5～RX8の受信ユニット表示
を切替えるスイッチです。

スイッチを押すことにより、「RX1～RX4」と、
「RX5～RX8」、「RX1～RX8 全表示(RX1～
RX4 選択状態)」、「RX1～RX8 全表示(RX4～
RX8 選択状態)」の 4 状態が、順に表示されま
す。

⑦ ▲スイッチ

⑧ ▼スイッチ

⑨ ◀スイッチ

⑩ ▶スイッチ

チャンネル設定用のスイッチです。

設定方法は、13 ページ「設定画面」を参照して
ください。

⑪ モニタースピーカボリューム (SP VOL)

モニター用スピーカの音量調整ボリュームで
す。

有線マイク使用時は、ハウリング等が起きないよ
うに注意してください。

⑫ マイクボリューム (MIC VOL)

マイク入力コネクタ(18)のマイク入力レベル調整
用ボリュームです。

⑬ ラインレベル調整ボリューム (4W・2W IN/OUT)

IN 子機へ送る音声レベル調整ボリューム
です。

OUT 子機からの音声レベル調整ボリューム
です。

※2 線式(2W)/4 線式(4W)共に共通です。

⑭ 側音調整ボリューム (2W BAL)

2 線式使用時に、子機の側音調整を行うための
調整ボリュームです。

⑮ 側音調整ボリューム (4W T.B)

4 線式使用時に、子機の側音調整を行うための
調整ボリュームです。

⑯ PGM 音量調整ボリューム (PGM IN)

PGM 入力(25)のレベル調整ボリュームです。

⑰ モニタースピーカ

⑱ マイク入力コネクタ (MIC)

有線マイクを接続します。
基準入力レベルは、-60dBm です。
(適合プラグ:NC3MXX-B または相当品)

⑲ テストヘッドセット用コネクタ (TEST H.S)

ヘッドセットを接続すると、無線インターカム装置の通話テストを行うことができます。

⑳ 主電源スイッチ・電源 LED (POWER)

主電源が投入されると『緑』LED が点灯します。

㉑ FG 端子



警告

本 FG 端子は必ずアースと接続して下さい。接地せずに使用すると感電する恐れがあります。また、アース線は AWG18 以上の太さをご使用下さい。

㉒ AC 電源コネクタ

AC100V、50/60Hz の電源を供給してください。付属のケーブルをご使用下さい。



警告

他の電源電圧では絶対に使用しないで下さい。感電・火災等の恐れがあります。

㉓ ヒューズ (φ 6.40 × 30.0mm)

250V、1.5A のヒューズをご使用ください。



警告

ヒューズを交換する際は、必ずACプラグをコンセントから抜いて下さい。感電の恐れがあります。

㉔ 外部 SP ジャック (SP)

外部モニタースピーカを接続できます(1W8Ω) プラグを差し込むと、⑰のモニタースピーカは OFF となります。
(適合プラグ:φ 6.3 フォーンプラグ)

㉕ PGM 入力用コネクタ (PGM IN)

プログラム入力コネクタです。
(適合プラグ:NC3FXX-B または相当品)

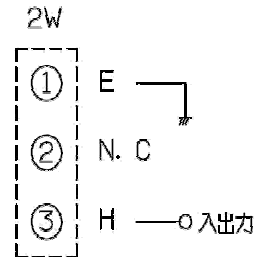
㉖ ライン切換えスイッチ (4W ⇄ 2W)

2 線式/4 線式の接続を切換えます。

㉗ 送受話 2 線式コネクタ (2W)

2 線式の回線に接続して使用します。
側音は負荷インピーダンスにより、調整できない場合があります。
(適合プラグ:NC3FXX-B または相当品)

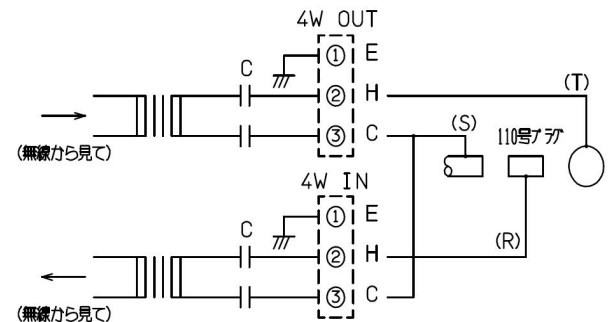
コネクタ接続図



㉘ 送受話 4 線式コネクタ (4W IN ・ 4W OUT)

4 線式の回線に接続して使用します。
インピーダンスは 600Ω で、直流電圧カット仕様です。
(4W IN 適合プラグ:NC3FXX-B または相当品)
(4W OUT 適合プラグ:NC3MXX-B または相当品)

コネクタ接続図



㉙ AF ミキシングコネクタ (MIX IN)

受信専用モード時の接続用コネクタです。受信専用モードに設定した親機の 4W OUT と接続してください。他の機器は接続しないで下さい。
(適合プラグ:NC3FXX-B または相当品)

㉚ I/O

メンテナンス用端子です。
何も接続しないで下さい。

③1 **アンテナコネクタ (ANT1 ・ ANT2)**

送受信共用アンテナコネクタです(M型)。
75Ω同軸ケーブルを使用してください。
指定周波数のダイポールアンテナまたは、ホイップアンテナを接続してください。
接続しないコネクタへは、75Ωターミネーションを接続してください。

③2 **コントラストボリューム**

表示パネル①のコントラスト調整ボリュームです。

③3 **ラックマウント取り付け穴**

19インチラックマウントに収納する場合、各規格(JIS/EIA)に対応する取り付け穴をご使用ください。

※注意

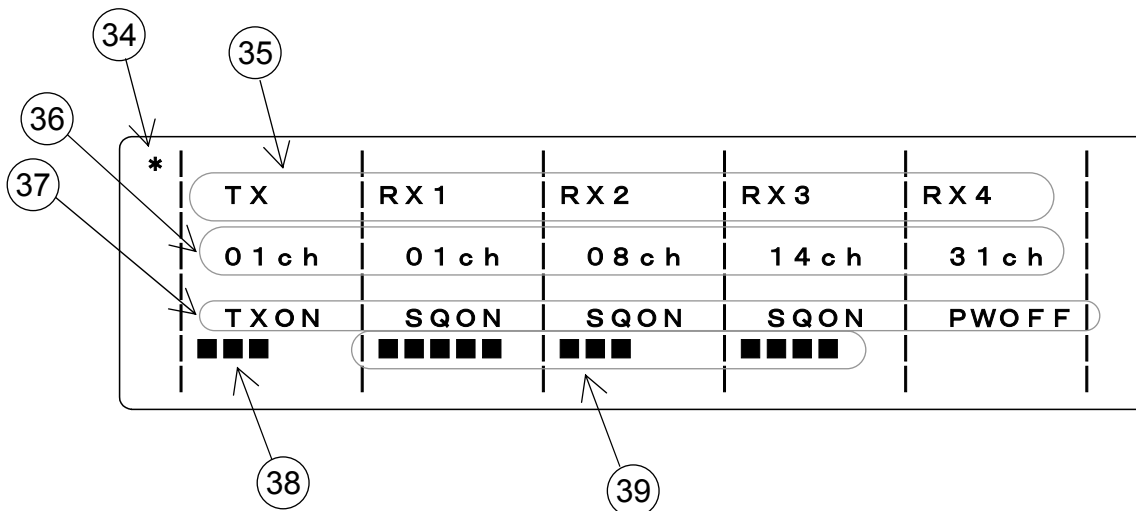
各スイッチの操作後3秒以内に、主電源をオフにしないでください。
設定状態が正しく保存できない場合があります。

※注意

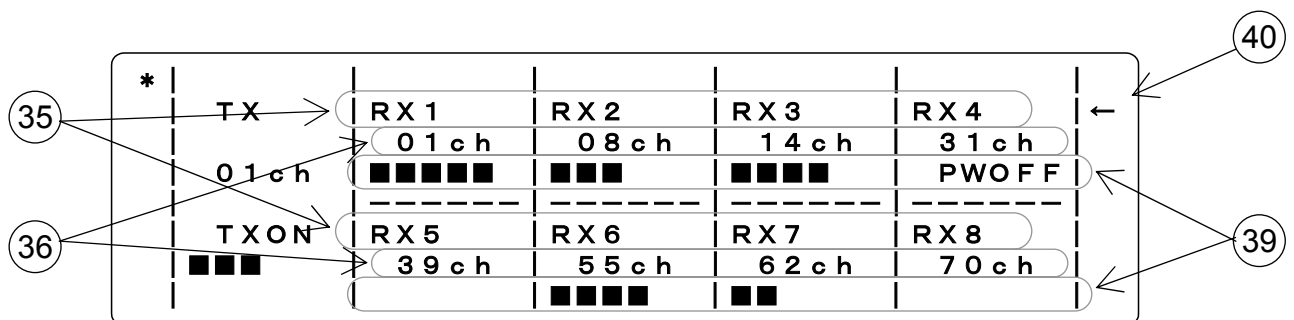
受信専用モードの設定は、工場出荷時に設定を行います。
設定が必要な場合は、弊社営業課までご連絡下さい。

4.1.画面表示

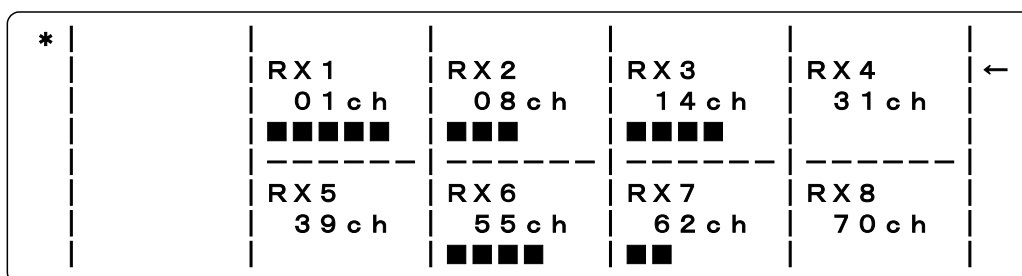
【一段表示】



【二段表示】



【受信専用モード】



受信専用モード設定時は、TX の表示部は空欄になります。

③4 動作中表示

本機が動作中は、「*」が点滅します。

③5 TX/RX 表示

送信ユニット(TX)と、受信ユニット番号(RX1～RX8)を表示します。

③6 チャンネル番号表示

送信・受信チャンネル番号を表示します。
チャンネル番号表示が「—」の場合は、ユニットが実装されていない状態です。

③7 TX/RX 状態表示

送信ユニット(TX)と、受信ユニット(RX1～8)の状態を表示します。

[送信ユニット]

TXON	送信中
TXOFF	送信停止中

[受信ユニット]

SQON	スケルチオープン中
SQOFF	スケルチクローズ中
PWOFF	受信停止中

③8 AF レベル表示

送信中の AF レベルをバーメーターで表示します。

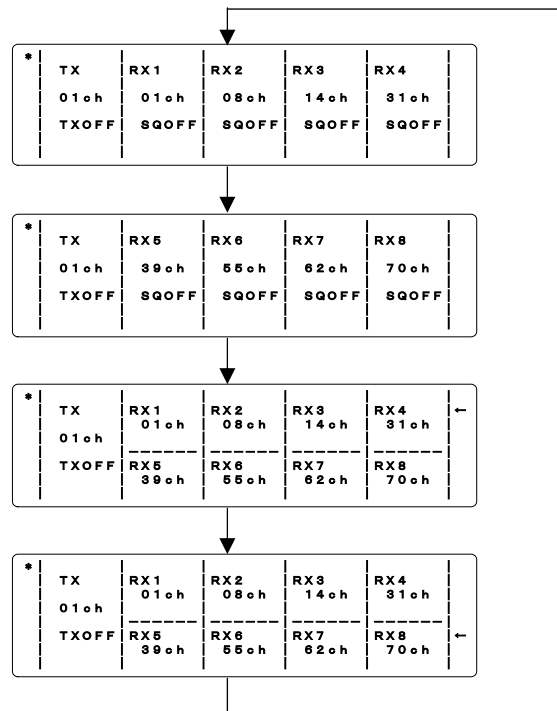
③9 S レベル表示

受信中の信号強度をバーメーターで表示します。

④0 受信ユニットスイッチ選択中表示

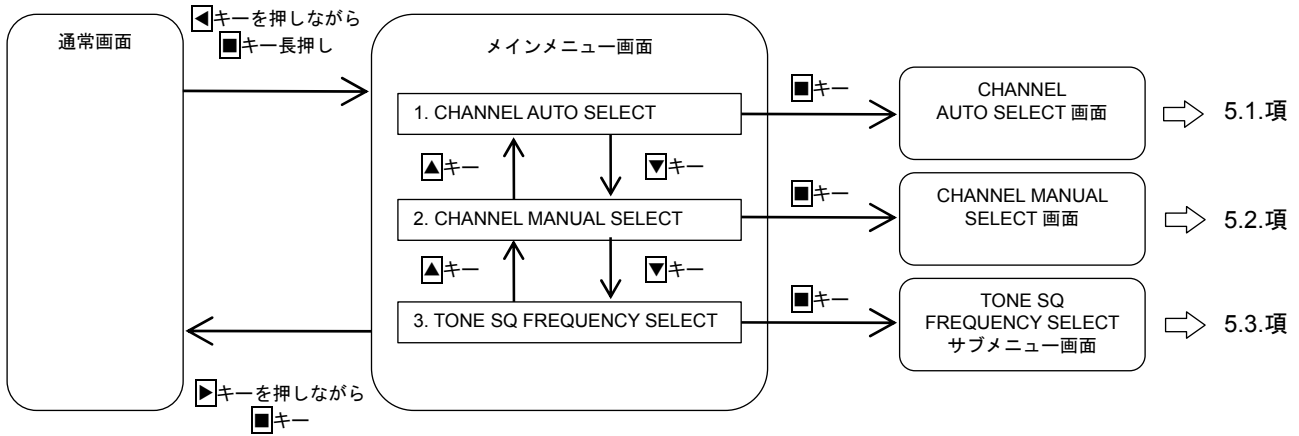
矢印“←”で選択されている受信ユニットグループの受信ユニットスイッチ(③)またはスケルチスイッチ(④)を操作できます。

※ 画面表示は、■スイッチ(⑥)を押す度に、右のように表示が切り替わります。



5. 設定画面

送信・受信周波数の設定および、トーンスケルチの周波数設定は、設定画面で行います。
 受信専用モード設定時は、送信の CHANNEL および TONE の設定は使用できません。

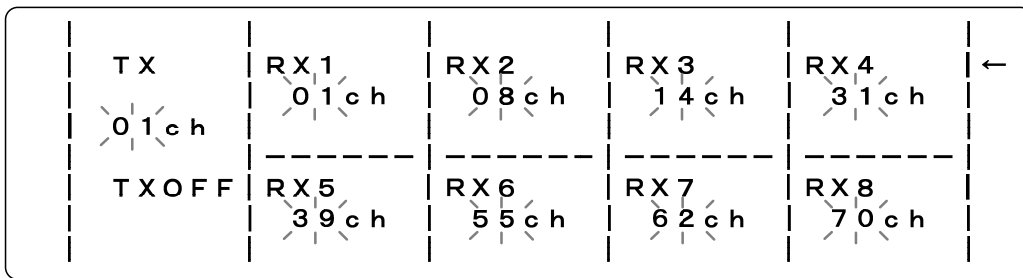


メニュー構成

5.1.CHANNEL AUTO SELECT 画面

送信チャンネル・受信チャンネルを、あらかじめ決められたチャンネルプランに設定します。

- ① 設定画面に移行すると、TX / RX の全チャンネル番号が点滅します。
- ② ▲・▼ スイッチでチャンネルプランを選択します。
- ③ ■ スイッチを押すと、選択したチャンネルプランで、送信ユニット・受信ユニットを設定します。
 キャンセルする場合は、▶ スイッチを押しながら ■ スイッチを押します。



チャンネルプラン	TX [CH 番号]	RX1 [CH 番号]	RX2 [CH 番号]	RX3 [CH 番号]	RX4 [CH 番号]	RX5 [CH 番号]	RX6 [CH 番号]	RX7 [CH 番号]	RX8 [CH 番号]
1	01	01	08	14	31	39	55	62	70
2	09	03	06	11	17	29	35	43	51
3	14	06	09	14	20	32	38	46	54
4	18	10	13	18	24	36	42	50	58
5	24	15	18	23	29	41	47	55	63
6	01	01	01	01	01	01	01	01	01
7	12	36	36	36	36	36	36	36	36
8	24	72	72	72	72	72	72	72	72

チャンネルプラン表

5.2.CHANNEL MANUAL SELECT 画面

送信チャンネル・受信チャンネルを、個別に設定します。

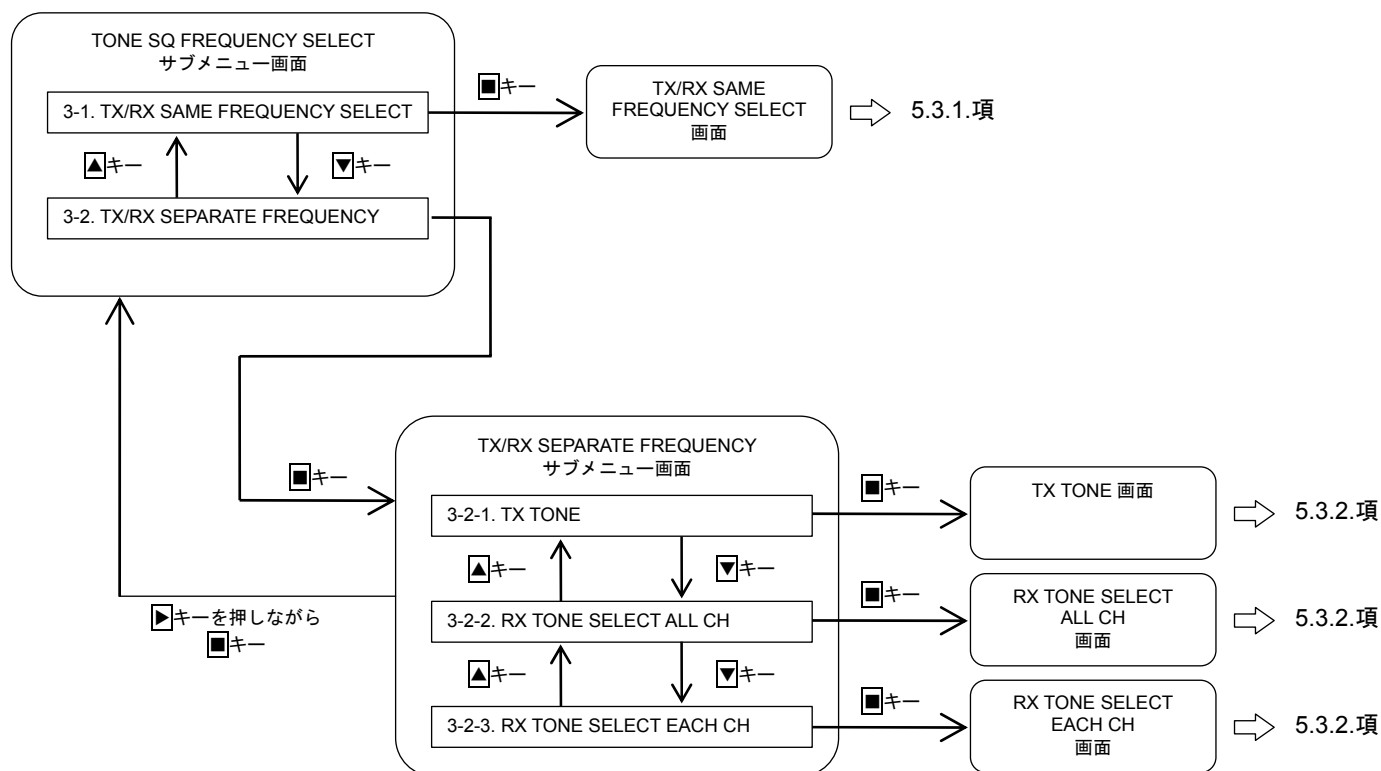
- ① 設定画面に移行すると、TX のチャンネル番号が点滅します。
- ② 設定したい送信ユニット・受信ユニットを、◀・▶ スイッチを使い選択します。
- ③ ▲・▼ スイッチを使いチャンネルを変更します。
- ④ ■ スイッチを押すとチャンネルが設定され、メニュー画面に戻ります。
キャンセルする場合は、▶ を押しながら ■ スイッチを押します。

TX 01 ch	RX1 01 ch	RX2 08 ch	RX3 14 ch	RX4 31 ch	←
TX OFF	RX5 39 ch	RX6 55 ch	RX7 62 ch	RX8 70 ch	

5.3. TONE SQ FREQUENCY SELECT 画面

トーンスケルチの周波数設定用サブメニュー画面です。

トーン周波数を、送信ユニット・受信ユニットとも一括で設定するか、個別に設定するか選択できます。



サブメニュー構成

67.0 Hz	69.4 Hz	71.9 Hz	74.4 Hz	77.0 Hz	79.7 Hz	82.5 Hz	85.4 Hz
88.5 Hz	91.5 Hz	94.8 Hz	97.4 Hz	100.0 Hz	103.5 Hz	107.2 Hz	110.9 Hz
114.8 Hz	118.8 Hz	123.0 Hz	127.3 Hz	131.8 Hz	136.5 Hz	141.3 Hz	146.2 Hz
151.4 Hz	156.7 Hz	162.2 Hz	167.9 Hz	173.8 Hz	179.9 Hz	186.2 Hz	192.8 Hz
203.5 Hz	210.7 Hz	218.1 Hz	225.7 Hz	233.6 Hz	241.8 Hz	250.3 Hz	OFF

トーン周波数一覧

※注意

TONE 周波数の設定または変更を行った場合は、主電源を必ずオフにしてから再度、主電源をオンして下さい。

主電源を一度オフにしていただかないと、設定状態が正しく反映されない場合があります。

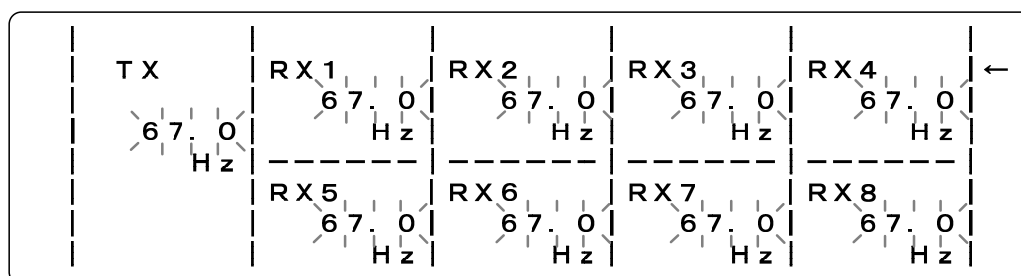
ただし、設定または変更後 3 秒以内に主電源をオフにしないで下さい。

設定状態が正しく保存できない場合があります。

5.3.1. TX/RX SAME FREQUENCY SELECT 画面

トーン周波数を、送信ユニット・受信ユニットとも一括で設定します。

- ① 設定画面に移行すると、TX / RX の全トーン周波数が点滅します。
- ② スイッチでトーン周波数を選択します。
- ③ スイッチを押すと、選択したトーン周波数で、送信ユニット・受信ユニットを設定します。
キャンセルする場合は、 スイッチを押しながら スイッチを押します。



5.3.2. TX/RX SEPARATE FREQUENCY サブメニュー画面

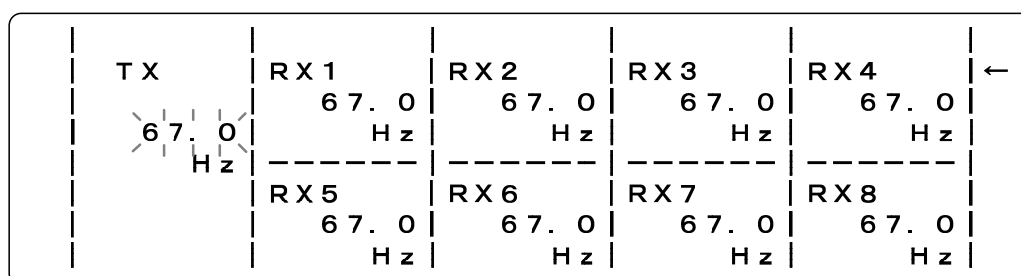
トーン周波数を、送信ユニット・受信ユニットで、個別に設定します。

受信ユニットの設定方法は、全受信ユニット一括設定と、受信ユニット個別設定があります。

5.3.2.1. TX TONE 画面

送信ユニットのトーン周波数を設定します。

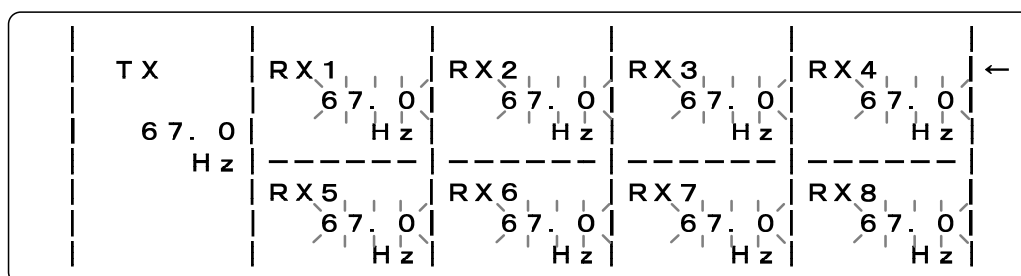
- ① 設定画面に移行すると、送信ユニット(TX)のトーン周波数が点滅します。
- ② スイッチでトーン周波数を選択します。
- ③ スイッチを押すと、選択したトーン周波数で送信ユニットを設定します。
キャンセルする場合は、 スイッチを押しながら スイッチを押します。



5.3.2.2. RX TONE SELECT ALL CH 画面

受信ユニットのトーン周波数を一括で設定します。

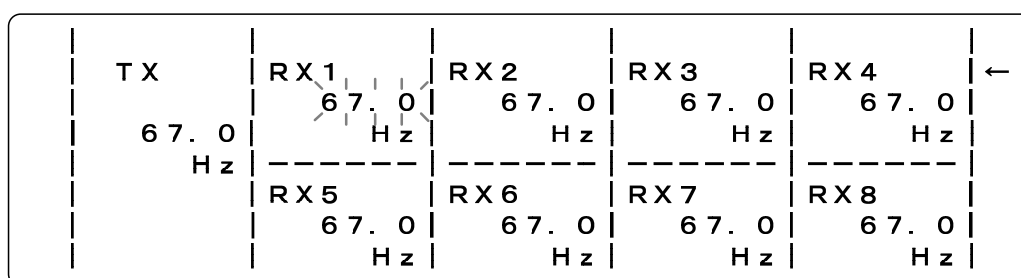
- ① 設定画面に移行すると、全ての受信ユニット(RX1～RX8)のトーン周波数が点滅します。
- ② スイッチでトーン周波数を選択します。
- ③ スイッチを押すと、選択したトーン周波数で全ての受信ユニットを設定します。
キャンセルする場合は、 スイッチを押しながら スイッチを押します。



5.3.2.3. RX TONE SELECT EACH CH 画面

受信ユニットのトーン周波数を、個別に設定します。

- ① 設定画面に移行すると、受信ユニット 1(RX1)のトーン周波数が点滅します。
- ② 設定したい受信ユニットを、 スイッチを使い選択します。
- ③ スイッチでトーン周波数を選択します。
- ④ スイッチを押すと、選択したトーン周波数で受信ユニットを設定します。
キャンセルする場合は、 を押しながら スイッチを押します。



6. 使用周波数一覧表

親機 送信周波数(下り)		子機 送信周波数(上り)					
CH番号	周波数(MHz)	CH番号	周波数(MHz)	CH番号	周波数(MHz)	CH番号	周波数(MHz)
1	454.05000	1	413.70000	26	413.85625	51	414.01250
2	454.05625	2	413.70625	27	413.86250	52	414.01875
3	454.06250	3	413.71250	28	413.86875	53	414.02500
4	454.06875	4	413.71875	29	413.87500	54	414.03125
5	454.07500	5	413.72500	30	413.88125	55	414.03750
6	454.08125	6	413.73125	31	413.88750	56	414.04375
7	454.08750	7	413.73750	32	413.89375	57	414.05000
8	454.09375	8	413.74375	33	413.90000	58	414.05625
9	454.10000	9	413.75000	34	413.90625	59	414.06250
10	454.10625	10	413.75625	35	413.91250	60	414.06875
11	454.11250	11	413.76250	36	413.91875	61	414.07500
12	454.11875	12	413.76875	37	413.92500	62	414.08125
13	454.12500	13	413.77500	38	413.93125	63	414.08750
14	454.13125	14	413.78125	39	413.93750	64	414.09375
15	454.13750	15	413.78750	40	413.94375	65	414.10000
16	454.14375	16	413.79375	41	413.95000	66	414.10625
17	454.15000	17	413.80000	42	413.95625	67	414.11250
18	454.15625	18	413.80625	43	413.96250	68	414.11875
19	454.16250	19	413.81250	44	413.96875	69	414.12500
20	454.16875	20	413.81875	45	413.97500	70	414.13125
21	454.17500	21	413.82500	46	413.98125	71	414.13750
22	454.18125	22	413.83125	47	413.98750	72	414.14375
23	454.18750	23	413.83750	48	413.99375		
24	454.19375	24	413.84375	49	414.00000		
		25	413.85000	50	414.00625		

親機送信周波数 1~24ch(6.25kHz 間隔)

子機送信周波数 1~72ch(6.25kHz 間隔)

7. 定格性能

測定温度 25°C±5°Cにおいて下記の通りです。

システム定格

1) 周波数	454MHz 帯(下り 24 波)、413MHz 帯(上り 72 波)
2) 電波型式	F3E/F2D(ただし、F2D のみは禁止)
3) 周波数偏差	±4ppm 以内
4) 周波数設定方式	水晶制御周波数シンセサイザー方式
5) チャネルセパレーション	12.5kHz(インターリーブ 6.25kHz)
6) 音声帯域	300Hz～3kHz
7) 通信方式	相互同時通話及び、プレストーク通話
8) 最大同時通話数	1:8 同時通話(受信専用モード増設時は 1:16 まで)
9) トーン周波数	67～250Hz 内の1波、トーン OFF 可能
10) 動作温度	-10～+50°C(但し電池の温度特性は含まず)
11) 規格	ARIB STD-20 準拠
12) 無線局免許	不要

送信部

1) 送信周波数	454.0500～454.19375MHz 6.25kHz step 24 波中の 1 波
2) 空中線電力	1mW 以下(アンテナ 2 端子合計・インピーダンス75Ω)
3) 占有周波数帯幅	8.5kHz 以下
4) 隣接チャネル漏洩電力	60dB 以上(12.5kHz 離調 ±4.25kHz)
5) スプリアス	-2.5μW 以下
6) 最大周波数偏移	±2.5kHz 以下
7) 変調歪	5%以下
8) コンプレッサ特性	圧縮比 2:1

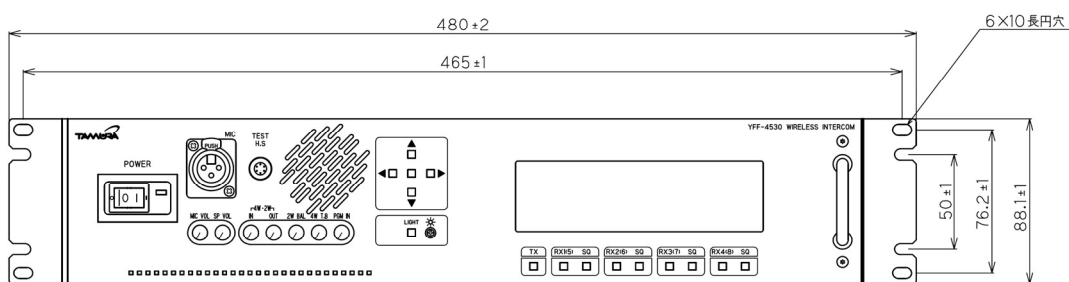
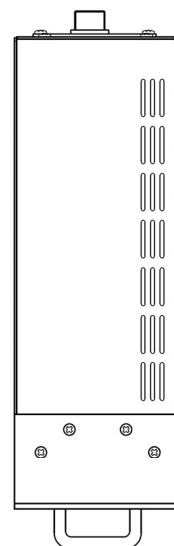
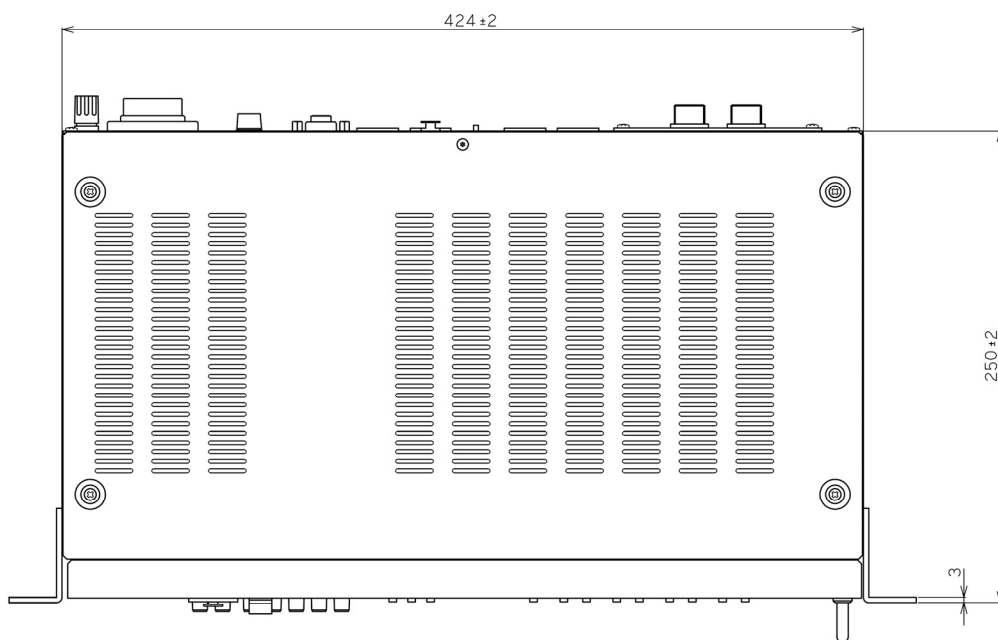
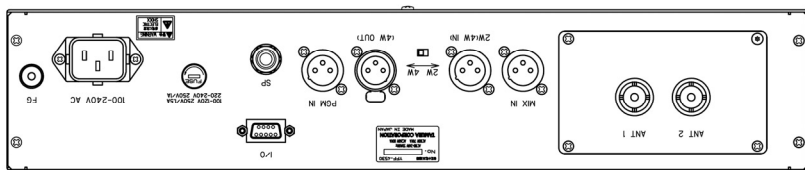
受信部

1) 受信周波数	413.7000～414.14375MHz 6.25kHzstep 72 波中の最大 8 波
2) 受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
3) 受信感度	0dBμV 以下(SINAD 12dB)
4) スケルチ感度	受信感度以下
5) トーンスケルチ感度	±0.1kHz 以下
6) 復調歪	5%以下(Δf:1kHz、f:1kHz 40dBμV 入力時)
7) 信号対雑音比	40dB 以上 (Δf:1kHz、f:1kHz 40dBμV 入力時、エキスパンダ特性含む)
8) エキスパンダ特性	伸長比 1:2

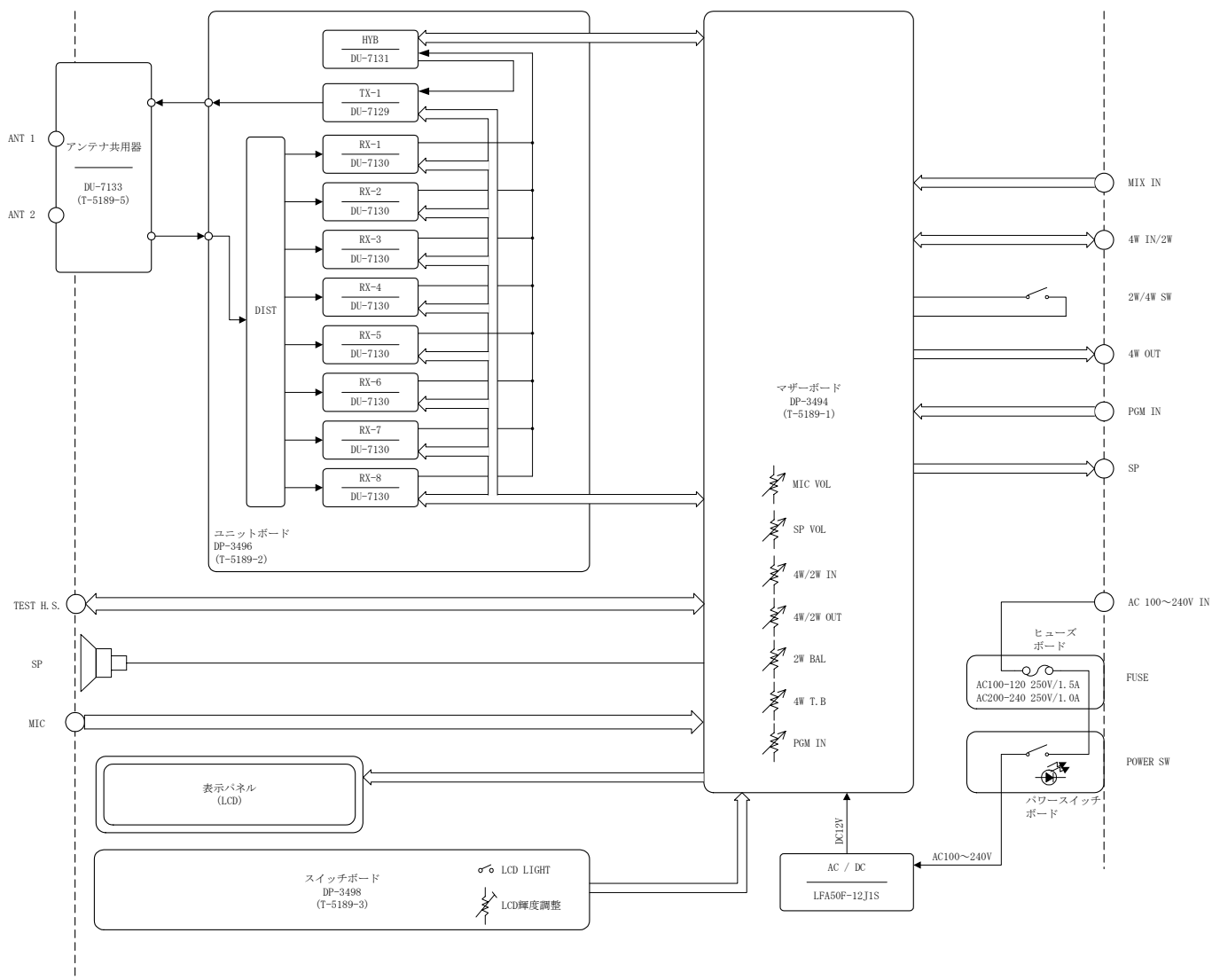
共通部

1) ライン形式	2/4 線式(背面スイッチで切り替え) 0dBm 600Ω 平衡(4 線式)、-20dBu 220Ω 不平衡(2 線式)
2) マイク入力	-60dBm 600Ω 平衡
3) スピーカ出力	最大 1W 8Ω
4) プログラム入力	-20dBm 600Ω 平衡
5) MIX 入力	-10dBm 600Ω 平衡
6) 構造	ラックマウント型(JIS、EIA:オプション)
7) 回路構成	ユニット構成
8) 使用電源	AC100～240V
9) 定格容量	15VA(AC100V)、25VA(AC240V)
10) 使用環境範囲	温度:-10～+50°C 湿度: 35～90%(結露なき事)
11) 保存温度	-20°C～+70°C
12) 質量	約 7kg
13) 外装色	黒

8. 外形寸法図



9. 系統図



10. 故障かなと思ったら

修理のご依頼前に、もう一度点検してください。

それでも正常に動作しないときは、弊社営業部までご相談ください。

症状	原因	対処のしかた
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに差し込んで下さい。
受信しない。	アンテナコネクタに同軸ケーブルが接続されていない。	アンテナコネクタに同軸ケーブルを接続して下さい。
	受信ユニットがOFF設定になっている。	受信ユニットスイッチを押してON設定にして下さい。
	受信ユニットの受信チャンネルと子機の送信チャンネルが合っていない。	受信ユニットの受信チャンネルと子機の送信チャンネルを合わせて下さい。
	受信ユニットのトーン設定と子機のトーン設定が合っていない。	受信ユニットのトーン設定と子機のトーン設定を合わせて下さい。
送信しない。	送信ユニットがOFF設定になっている。	送信ユニットスイッチを押してON設定にして下さい。
子機に音が出ない。	送信ユニットの送信チャンネルと子機の受信チャンネルが合っていない。	送信ユニットの送信チャンネルと子機の受信チャンネルを合せて下さい。
	送信ユニットのトーン設定と子機のトーン設定が合っていない。	送信ユニットのトーン設定と子機のトーン設定を合わせて下さい。
	ライン調整ボリューム(IN)が絞られている。	ラインレベル調整ボリューム(IN)を回して適正な音量になるよう調整して下さい。
スピーカから音が出ない。	モニタースピーカボリュームが絞られている。	モニタースピーカボリュームを回して適正な音量になるよう調整して下さい。
	背面のSPジャックに外部スピーカ用ケーブルが接続されている。	SP ジャックに接続されている外部スピーカ用ケーブルを外して下さい。
表示パネルの画面が表示しない。	バックライトがオフになっている。	バックライトスイッチを押して下さい。
表示パネルの画面が暗い。	コントラストが小さく設定されている。	コントラストボリュームを回して明るさを調整して下さい。

症状	原因	対処のしかた
[有線機器との接続] 音が出ない。(4線式接続)	ライン切換えスイッチが「2W」側に入っている。	ライン切換えスイッチを「4W」側に入れて下さい。
	ラインレベル調整ボリュームが絞られている。	ラインレベル調整ボリュームを回して適正な音量になるよう調整して下さい。
[有線機器との接続] 音が出ない。(2線式接続)	ケーブルが「4W OUT」のコネクタに接続されている。	ケーブルを「2W(4W IN)」のコネクタへ接続してください。
	ラインレベル調整ボリュームが絞られている。	ラインレベル調整ボリュームを回して適正な音量になるよう調整して下さい。
[有線機器との接続] 音が小さい。	ラインレベル調整ボリュームが絞られている。	ラインレベル調整ボリュームを回して適正な音量になるよう調整して下さい。
	有線インカムとの2線式接続で、有線インカムのターミネーションと本機器のターミネーションが共にオンになっている。 *工場出荷時は本機器のターミネーションはオフになっています。	有線インカムまたは本機器のどちらかのターミネーションをオフにして下さい。 *本機器のターミネーション設定を変更する場合は、営業またはカスタマーサポートまでご連絡ください。
[有線機器との接続] 子機に聞こえる音が小さい。	ライン調整ボリュームが絞られている。	ラインレベル調整ボリュームを回して適正な音量になるよう調整して下さい。
	側音調整ボリュームが適正な値になっていない。	4線式接続の場合は「4W T.B」、2線式接続の場合は「2W BAL」の側音調整ボリュームを回して適正な音量になるよう調整して下さい。
[有線機器との接続] ノイズが発生する。	有線インカムとの2線式接続で、ターミネーションされていない。 *工場出荷時は本機器のターミネーションはオフになっています。	有線インカムまたは本機器のどちらかのターミネーションをオンにして下さい。 *本機器のターミネーション設定を変更する場合は、営業またはカスタマーサポートまでご連絡ください。

MEMO

MEMO

保証規定

保証期間は ご購入日より 1 年間

保証期間中に正常な使用状態のもとで、万一故障が発生した場合には無償で修理いたします。但し下記事項に該当する場合は無償修理の対象から除外します。

1. 不当な修理や改造による故障
2. 不適當な取扱い又は使用による故障
3. 天災など故障の原因が本機以外の事由による故障
4. ご購入後の輸送、移動、落下等による故障及び破損

ご使用中に不具合が発生し修理を必要とする場合、また動作運用上についてご不審の点がある場合、その他弊社取扱品目についてご要望事項がありましたら、弊社営業部までご連絡下さい。なお、修理・再調整期間を短縮するために事故状態・ご使用期間などの経歴をできるだけ詳細にお知らせ下さい。

株式会社 タムラ製作所

ブロードコム事業部

〒178-8511 東京都練馬区東大泉 1-19-43

営業 TEL 03-3978-2141、2146 (ダイヤルイン)

FAX 03-3978-2005

カスタマーサポート TEL 03-3978-5269 (ダイヤルイン)

FAX 03-3978-2119

西日本営業所

〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3-27-27 第2江坂三昌ビル 5F

TEL 06-4861-7722 (代表)

FAX 06-4861-7728

株式会社 **タムラ製作所**
TAMURA CORPORATION

<http://www.tamura-ss.co.jp/>

仕様および外観など、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。